



カイくんときょうちゃんの 「お邪魔します!!」



来日教誨師 ハビエル・ガラルダ神父を訪ねて

カイ：神父様はおいくつですか？

神父：私は1931年スペインのマドリード生まれの92歳です。

きょう：どうして日本に来たのですか？

神父：スペインの神学校を卒業するとき、どこで活動しようかと悩んでいると、日本のアルペ神父様から日本は神父が足りないの、日本に来て欲しいと依頼を受けました。考えてみると、私の両親は、新婚旅行で日本を訪れていましたから、小さい時から日本の話を聞いていました。

また、日本にキリスト教を伝えたのはフランシスコ・ザビエル神父ですが、彼はスペインのハビエル出身で私の名前と同じです。なにか日本とは縁があると感じ、1958年に日本にやって来ました。それからずっと日本で生活しています。

きょう：神父様は1966年上智大学の講師から始まり、現在は名誉教授であり、お忙しいかと思いますが、どうして教誨師になられたのですか？

神父：1994年63歳の時に府中刑務所の教誨師になりました。聖イグナチオ教会のエルナンデス師が先に教誨師になっていて、お手伝いで通っていましたので、教誨師についてはある程度理解していました。

また、兄はスペインで刑務所からの出所者の支援活動をしていました。そのような関係で教誨師を引き受けました。現在は東京拘置所の教誨師も兼任しています。

カイ：教誨師としては、どのような活動をされていますか？

神父：府中刑務所には、個人教誨と集合教誨で月2回、東京拘置所には個人教誨で月1回訪問しています。

府中では、皆さん希望を持って元気に頑張っていますから、友達に会いに行くつもりで通っています。

彼らの多くは、自分自身のこと・家族のこと・将来のことと悩んでいるので、私は「泣かないで、忍耐強く、希望を持って生活すること。」出所後のことを考えて「施設内の作業や職業訓練を受け、技能を身につけ将来の仕事につなげること。」また、自由時間ではなんでもいいので「勉強すること。」を勧めて「規律正しく生きること」を身につけてほしい。」と願っています。そして「有意義に刑務所生活を送る

こと。」がなによりも大切です。

きょう：約30年外国人受刑者の皆さんの個人教誨をしています。昔と今ではなにか変化はありますか？

神父：職員に対する不満が少なくなりました。

人数の多いスペイン語系外国人受刑者の国籍が変化しました。食事については、時がたつと皆さん慣れるようですし、施設側も外国人食の充実を図ってしてくれました。外国語書籍も充実しているので、満足しているようです。

昔も今も、皆さんは「孤独が辛い」「不安だ」「家族と電話で話したい」「規則は厳しいが大丈夫」と言います。

また、犯罪に走った理由は、昔も今も「貧しかったこと。」「家族と繋がっていなかったこと。」「女・酒・金・車が欲しかったこと。」です。

きょう：話は変わりますが、日本の家庭に必要なもの、足りないものはなんですか？

神父：日本の家庭の中までは知りませんが、

- 1 一緒に祈ること。無理矢理でも一緒に祈る。家族みんなで祈ること。
- 2 子どもたちとミサに行くこと。
- 3 イエスは主なる友だち。ペトロのようにイエスに対して尊敬に満ちた友情を育てるのが大事。イエス・キリストとマリアと友だちになること。キリストのようにキリストと共に生きること。
- 4 子供が一時的に離れることがあっても、いつか戻れるように信じて、それを教えること。
- 5 人を大切にすること。貧しい人に親がなにかをしていけば、それをはっきり覚えている。子供は親がした行いを覚えている。親の見本を実行してみせること。立派なことを言って実行しないのではなく、立派な行いをする。
- 6 困っている人たちの所に行き経験させるのがよいこと。
- 7 片方の親がカトリックに理解がない場合でも、カトリックに対して軽蔑ではなく尊敬をみせること。
- 8 愛を信じること。

きょう：先生と話しているとなにか温かい気持ちになりました。

きょう・カイ：本日はありがとうございました。